



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 72

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
花いっぱい運動
平成3(1991)年
詫間町

詫間町では、平成5(1993)年の東四国国体に向けて、昭和63(1988)年頃から花いっぱい運動を展開する。平成3(1991)年には、「花いっぱい運動推進計画」を策定、推進協議会も設立し、運動の進め方について報告書が提出されるなど運動を加速していった。詫間駅から国体会場となる弓道場までのメインロードを中心に花木が植えられ、住民ボランティアが花の植え替えや管理を行った。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「花いっぱい運動が始まったとき、私も詫間大橋付近の花壇に植えに行きました」と話すのは、詫間町の小林寛司さん(72)。小林さんは当時、花いっぱい運動推進協議会のメンバーに入っていました。

「この活動は、平成5年開催の東四国国体に向けて、町をあげて実施されたものでした。詫間大橋だけでなく、詫間駅や役場周辺、紫雲山にまで、住民みんなで花を植えていきましたよ。私も道沿いの花壇にバーベナテネラを、紫雲山の出山の駐車場から展望台に向かってはノースポールの花を植えました」

こうした花いっぱい運動によって、街中には小さな花壇が作られ、花の鑑賞スポットが次々に生まれていきました。その管理は自治会をはじめ、子ども会、婦人会、老人会が担い、たくさんの方が参加しました。まさに、町ぐるみの活動でした。

「実は、この花いっぱい運動が活発になったのは、国が昭和63年から平成元年にかけて行った、ふるさと創生事業がきっかけでした。1億円が町に交付されることになり、詫間町ではふるさと創生懇談会を設立して、その使い道を考えることになりました。私は懇談会の会長でした」

だが、運営委員7人を中心に自由闊達な討論がなされ、さまざまなアイデアが出ました。そして、最終的にまとめた提言の中で、花いっぱい運動が重点プロジェクトに位置付けられたのです。

ふるさと創生事業の交付金を活用した花いっぱい運動は、その後、四季を通して花が鑑賞できるよう、荘内半島を中心に7カ所の花畑の整備にも取り組みました。また、詫間大橋付近の花壇は、今でも詫間町ボランティア協会の皆さんがお世話をしてくれています。花のある町づくりの心は、時を経ても引き継がれています。



編集 後記

早 12月号…。1年が経つのは早いなあと思いつつ、子育て特集を作成しながら、私はまだ独身ですが、もし子どもを持つ日がきたら、地域で子育て支援に関わる皆さんにぜひ頼ってみたいと思いました。子どもを持つことが人生の全てではありませんが、親になる夢が膨らんだ機会となりました。